

## Interview

やねだん  
柳谷では平成19年11月に「やねだん  
故郷創世塾」を開校して、全国各地  
から地域づくりに不可欠なリー  
ダー養成研修が行われています。町  
では昨年に続き、今回も2名の町職  
員が研修に参加。そこで「塾生」とし  
て学び感じたことを聞いてみまし  
た。



御船町総務課総務係  
渡邊 洋平 主事

人と人のつながりを大切に  
一人ひとりがレギュラーへ

「故郷創世塾」で印象に残ったこ  
とは、柳谷を誇らしげに生き活きと  
話す地域住民の姿でした。集落の人  
が笑顔で、自分の集落を好きで、地  
域活動に協力的な姿勢は現代社会  
でそうそうみることはできません。  
柳谷は、近年失われつつある人間関  
係の希薄化を感じさせず、昔ながら  
の人と人のつながりを一人ひとりが  
大切にしていました。豊重哲郎塾  
長が「地域に補欠はいない。一人ひ  
とりがレギュラーだよ」と言われる  
意味を身をもって感じました。この  
ような人間味ある地域を創れるよう  
支援することこそ、行政職員に課  
せられた目標ではないでしょうか。  
本気で住民と心を通わせることで  
初めてそこにつながりが生まれ  
と改めて学びました。豊重塾長に教  
えられた「論よりも汗と涙と実行  
力」。そして、感動と感謝をいつも心  
のどこかに一日一生の精神で今から  
再スタートです。

主財源をつけて、提案した人  
も一緒に活動に入るこ  
とが私の考えている協働です。  
大切なことは「人をその気に  
させる」ことです。地域は自  
分で仕掛けてトライするため  
には最後の決め手は「勇気と  
度胸」。次は「体力」がなかつ  
たら地域づくりは絶対にでき  
ません。体力が勝負です。  
これからの村づくりはイベン  
トも大事です。今行っている  
ことプラス自主的に仕掛けら  
れるようなムードづくりを絶  
対に欠かさないでください。  
あわせて教育的配慮をやっ  
てください。

私は、先人達の偉業、墓  
地に沈んで仏になっている人  
たちはどうやって感謝しながら  
先輩と一緒に感動と感謝の活  
動ができるかが原点でした。  
すなわち地域づくりの基本は  
「基礎づくり」です。基礎づ  
くりは「人づくり」。人づくりは  
「雑学王」。それなりにいかに  
学ぶセットを用意してあげら  
れるかということ。行政にエ  
ールを送るということは当然  
のこと。行政がリードしてい  
くか、行政が仕掛けるか、行  
政が情報を与えるか、地域づ  
くりの入口と出口は一緒です。



1



2



3



4

1柳谷自治公民館に飾られている柳谷住民の顔写真は「迎賓館」に移住してきた芸術家のカメラマン  
が撮影2芸術家の中には陶芸家も在籍して柳谷住民の文化芸術面を支えている3「わくわく運動遊  
園」に設置された複数の健康遊具は高齢者の多い柳谷があみだした独自の健康療法4自主財源の余  
剰金で柳谷の高齢者に贈られたシルバーカーは生活に欠かせない足として活躍中

年目は私でも駄目だつて言つて  
辞める覚悟がありました。そ  
れが(集落にいる)1%の人で  
す。社会教育活動の時には、  
8割も来れば最高つという表  
現がみなさん普通ですよ。  
でも、地域づくりは、犠牲者  
を出してはいけません。一人の  
犠牲者も出さないためには、  
あつちむいている人をどうや  
つてその気にさせてあげるかが  
重要です。人は出番を待つて  
いるんです。アイデアで出番  
を引き出すつていうことが、  
リーダー不可欠論です。リー  
ダーがいなかったら、仕掛ける  
ことがなかったら、みなさん  
他人事になりますよ。気づい  
たら(地域が)老いて、集落  
の奉仕活動さえも出来ない過  
疎の地域となつてしまいます。

地域づくりは、半径10kmの人  
と仲良しになつて、アイコンタ  
クトができて、何かあつたら  
叫ぶだけで駆けつけてくれるつ  
ていうのが生きた福祉対策だ  
と思つています。

(私が)館長になつた3年目  
から集落が絶対に動いてくれ  
るという自信がついたから活  
動に入りました。まず、行  
政の補助金を10年間もらわな  
いで、10年後は町も県も国も  
認めてくれたなら、モデル料  
をもらうまでは頑張ろうよつ  
て意味がここにあるんです。

地域づくりは、今やつてい  
る行事、計画、プラス負の項  
目をまず挙げることです。不  
満、不利、不便、不可解、  
負のこういつた言葉をリスト  
アップして、それで集落の自

# 汗と涙と感動で 地域を本気に。

地域づくりのモデルとして全国から脚光を浴びる  
鹿児島県鹿屋市串良町柳谷(通称・やねだん)から  
リーダーを務める豊重哲郎氏が来町一。  
少子高齢化と地域過疎からの脱却を目指した  
独自の地域づくりが事例発表されました。  
今月号では汗と涙と感動をテーマに地域再生を実現した  
豊重氏の特別講演「行政に頼らない地域づくり」と  
御船町民が登場したパネルディスカッションを振り返り  
御船町に今求められている地域づくりを探ります。

行政に頼らなくても、行政  
はパートナーでいい、集落にい  
る行政職員と一緒に地域再生  
への一歩が大切です。隣近所と  
アイコンタクトができて、感動  
が伝わっていくような地域づ  
くりをやらないといけません。  
では、地域をどうやって本  
気にさせるのか。みなさん、  
感動という言葉が大好きです  
よね。感動とは「動いて感ず  
る」ということです。じつと  
していたのでは、とてもじゃな  
いけど知恵もありませんよ。

私は55歳の時に「地域を再  
生するには輪番制をやめよ  
う」「その人が辞めるつていう  
までみんなで支援しよう」と  
いう他薦(の声)で自治公民  
館長がふつてきました。私が

最初に申し上げた言葉は三つ  
あります。一つは「行政に頼  
らない柳谷づくりをやろう」。  
二つは「キーワードをもとう」。  
ここでキーワードを「子ども」  
イコール「文化」と定義し  
ました。三つは「自主財源」。  
一人ひとりの家から(自治)  
会費制を止めて、遊んでいる  
畑(耕作放棄地)で集落営  
農をやつて、いずれば収益が  
あがれば自分たちの地域活動  
ができると考え、三点セット  
で(地域づくりを)スタート  
しました。

でも、世の中にはこんな人  
がいます。あつちむいている人。  
みんなで地域活性化を協働で  
やろうとした時に、何割の人  
が手を挙げるでしょうか。田

舎型であるうが都会型であ  
うが一緒です。(仮に地域づ  
くりを)やりたい人だけでや  
たら、目的は早く達成されて  
スピードもあります。そうす  
ると足を引く張る人は蚊帳の  
外になつてしまいます。私は  
人を蚊帳の外に置いてまで柳  
谷を託されたではありません。  
集落に補欠はいません。  
引き出し方さえ間違わなかつ  
たら「みんな、みんな」と  
いうのが私の口癖で一生の宝  
です。

私が(自治公民館長を)  
引き受けて2年間であの人が  
動いてくれたら、あの人を動  
かさなかつたら、この人を仲  
間意識に、円満の輪の中に自  
主的に入つて来なかつたら、3



豊重 哲郎 氏

### Profile

とよしげ・てつろう  
元東京都銀行員。民間主導型「串良や  
つたる会」、むらづくり活性化アドバイザー  
などを経て、現在は柳谷自治公民館長を  
勤める。柳谷として内閣総理大臣表彰な  
ど受賞多数。鹿児島県出身



## やねだんの主な活動記録

- 平成9年5月  
耕作放棄地を活用した  
サツマイモ生産開始。  
「わくわく運動遊園」建設(20㎡)。  
異郷からのメッセージ放送を開始。
- 平成10年4月  
「わくわく運動遊園」完成。
- 平成12年4月  
土着菌(家畜ふん尿の悪臭防止)の  
製造開始。
- 平成12年5月  
緊急警報装置(介護用)の設置。  
「寺子屋」(小学生対象塾)の運営開始。
- 平成13年12月  
緊急警報装置(煙感知器)の設置。
- 平成15年11月  
緊急警報装置(防犯ベル)の設置。
- 平成16年3月  
焼酎「やねだん」の開発。
- 平成18年1月  
土着菌の足湯がオープン。
- 平成19年11月  
廃屋を改修して「迎賓館」を整備、  
芸術家9名を受け入れ。  
第1回故郷創世塾が開校。
- 平成21年9月  
韓国大邱市に  
「居酒屋やねだん」開店。

